

令和 4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

呉中央中学校区 校番18 学校名 呉中央小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	貫 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造	「主体的、対話的で深い学び」の実現と基礎・基本の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・国・算の学期末テストで80点を上回った児童の割合について <ul style="list-style-type: none"> ○80点を上回った児童の割合は、国語科(1年83%, 2年81%, 3年84%, 4年97%, 5年67%, 6年91%), 算数(1年96%, 2年81%, 3年92%, 4年87%, 5年81%, 6年81%)で、目標値は達成した。 ○自分の考えを語る場を計画的に設定すること(朝の会等を使ったスピーチ)は継続はできている。 ○「めあて まとめ ふりかえり」を位置づけた授業も行えている。 ●教科等の本質に迫る「考える授業」にするための発問の工夫は、さらに考える余地がある。 ・生活科・総合的な学習の時間に係る意識調査について <ul style="list-style-type: none"> ○意識調査から、児童・教職員共に90%以上の肯定的回答をしている。 ●自分事として主体的な学びになりきれていない児童がどの学年も数名いる。自分の生活と学習が関連付けられないことができないことが要因としてあげられる。 ・各学年の家庭学習目標時間の達成率について <ul style="list-style-type: none"> ●目標時間を達成している児童は、88.3%で目標値に少し届かなかった。 ●自主学習の内容は個人差が大きく、内容的に不十分な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科、算数科のテストで、問題文の大切な部分に線を引かせるなどの指導をして取り組ませ、テスト返却の際は、間違いの多かった問題を丁寧に指導する。 ・タブレットドリル等を活用し、個別指導を充実させる。 ・来年度、活用問題が毎回のテストに含まれているものの検討をする。 ・コロナ禍の現状であるが、五感を通した体験活動を積極的に実施し、体験を通して学んだことから振り返りを行う。 ・学習の結果だけではなく、過程全体を振り返り、「あしあとシート」に記述し、発達段階に応じた自分の生き方とつなげていく指導を充実させる。 ・タブレットドリルの効果的な活用を行い、家庭学習の定着を図る。 ・手本となる充実したノートを写真に撮り、ロイノートで共有する。(自学が行われている学年は自学ノート)9月末までに行う。
**	貫 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造	自己指導能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」「時間」「掃除」「返事」の実践について <ul style="list-style-type: none"> ○時間については、始まる時刻を守れる児童が多かった。 ●あいさつについては、適切に評価する場面が少なかった。 ●教師や児童の意識の高まりが名人認定の期間だけになり、継続して取り組める児童の数がなかなか伸びなかった。 ・自尊感情に関するアンケート調査について <ul style="list-style-type: none"> ○帰りの会等で、お互いの良さを褒め合う時間をつくることで、自己肯定感が育まれた。 ○係活動等で、自己評価や他者評価を可視化して掲示することで、自己有用感をもたせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ名人については、年間を通じて教師がシールを渡すなどして適切に評価し、あいさつのこだまする雰囲気を高めていく。 ・高学年がそれぞれのモデルを示し、タブレット等を活用して下級生に伝える機会をつくる。 ・教師の肯定的評価や児童が相互に評価する機会をつくることに継続して取り組む。 ・様々な場面でリーダーを育成し、人の役に立つ喜びや感謝を伝えられる嬉しさを実感させる。
*	貫 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成	生活リズムの確立と運動の日常化に取り組み、体力・運動能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝、早起き、朝ごはん」の定着状況について <ul style="list-style-type: none"> ○生活リズムにおいては昨年度に比べ改善傾向が見られた。 ○「早寝早起き朝ごはんキャンペーン」は子どもには意欲付けにつながり、教員には積極的な声かけにつながった。 ●高学年の数名に朝食欠食が見られた。 ●メディア時間の長い児童が多いのも課題である。 ・新体力テスト3種目の県平均達成率について <ul style="list-style-type: none"> ○校内研修で指導の統一をはかった結果「長座体前屈」は男女合計54%の児童が全国平均を上回った。 ●「投力」に課題があり、男女ともに40%を下回る結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる児童への声かけと、保護者連携を地道に行う。 ・2学期のキャンペーンに向けて子どもの意欲につながる取組を工夫する。(ZOOMを使ったの朝会等) ・投力向上に向けて、体育の準備体操に肩関節をほぐす運動を取り入れる。 ・持久力アップに向けて、「リズム縄跳び」を取り入れる。

業務改善	貫 業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する	児童と向き合う時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを活用したアンケートの実施や、コロナ対応などの柔軟な見直し、会議の精選を行うことで児童と向き合う時間が確保されていると感じている教職員が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用することにより、更なる業務改善を進めるとともに、取組が重複していないかなど、これまでの取組を見直し、スクラップアンドビルドに努める。
		長時間勤務の縮減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○退校時刻を決めて声掛けをすることで、優先順位を決めて計画的に仕事を進め、時刻を守って退校することができている。また、積極的な年休の取得を勧めている。 ○学年部会や分掌部会で仕事の見直しをもち、仕事の分担を行うことができた。 ●学年間で退校時間に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員それぞれが、引き続き退校時刻を意識してタイムマネジメントを行い、計画的に仕事を進める。 ・週1回定時退校日を実施する。 ・退校時間の学年平均を周知することで、退校時間を意識できるようにする。